

## 2003年度日本建築学会北陸支部大会企画

## 第1回「皆で語り合いのシンポジウム」

テーマ「北陸各地の建築・住宅・まちづくりの最前線をかたりあう」の報告

支部大会石川支所実行委員会

石川支所長 久保猛志 (金沢工業大学)

研究委員長 櫻井康宏 (福井大学)

事業委員長 富樫 豊 (富山建築・デザイン専門学校)

研究委員 永野紳一郎 (金沢工業大学)

## 1. シンポジウムの概要

2002年度北陸支部企画のシンポジウムは以下の通りに開催した。

日時：7月19日(土)13時～15時

会場：金沢工業大学8号館101教室

企画：事業委員会、研究委員会

参加者数：22名

## 2. 企画決定までの経緯

2002年5月4日の役員会にて、支部大会の企画案が決定したことを受けて、櫻井康宏研究委員長と富樫豊事業委員長を中心に企画を煮詰めることになった。

これは近年、支部において個人会員や賛助会員の退会が相次ぎ、支部活動に影響が出はじめていることが直接の契機である。その理由として実務系の会員にとって学会が「実務者が研究面においても仕事をしていても、研究発表の場の敷居が高い」ため、学会に所属してもメリットがないという捉え方をされていると考えられるためである。

そこで、講演論文を作成するというハードルを低くして、実務者の方々に気軽に参加できる場を作るためにはどうすればよいかという研究委員会、事業委員会での討議の結果から、シンポジウムという形式で開催する案が固まった。

テーマはまちづくりとして、開催場所に近い福井、富山、金沢市の行政の方々に討議材料を持ち寄っていただき、皆でワイワイやりながら意見交換をしようということでプロットが決まった。

## 3. 開催までの経緯

先のプロットをベースに、5月中に企画案を作成し、「支部大会における新しい企画のお知らせ」を研究報告集の配付時に添付するとともに、企画部署である研究委員会、事業委員会の各委員の方々に参加者への案内をお願いした。また、行政の方々には、福井では櫻井康宏研究委員長、石川では永野紳一郎研究委員、富山では富樫豊事業委員長の担当により、関係各所をお願いに回った。

## 4. シンポジウム状況

開催に際しては櫻井康宏研究委員長が司会を、富樫豊事業委員長が進行を担当した。写真1に示すように企画物件ごとに島を作り、参加者が自由に意見を述べ、自由に立ち代われる場を醸成した。



写真1 シンポジウム開催状況

各テーブルでは、熱心な討議と意見交換が行われた。約1時間半の討議を経た後、司会から、まちづくりに関して一家言を持つ諸先生方にコメントが求められた。参加者ともども企画成功の心地よい時間を惜しみつつ、富樫事業委員長より終了の辞が述べられ、終了となった(写真2)。



写真2 終了の辞を述べる富樫豊事業委員長

## 5. まとめ

参加者数が少ないことは残念であったが、企画の趣旨が反映できたシンポジウムとなった。支部活動活性化の契機となれば幸いである。